

2021 年度ゼミ (4001 演習 3A/4002 演習 3B) 要覧

担当者名	戸谷 浩
演習テーマ	ヨーロッパ地域研究と近現代史
内容 と 卒業論文の 指導方針	本演習においては、ヨーロッパ地域研究、ないしは地域を限定しない近現代史に関して、学生たちが積み上げてきた関心と蓄積を、卒業論文という形に結晶化させることを目指す。
メール・アドレス	toya@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	月曜 3 限
授業概要	<p>3A においては、ゼミ生の関心が共有されるような書籍の輪読を行う。それと並行して各自の卒論の進捗状況を確認するべく、個別面談も設定する。</p> <p>3B では、卒論の提出を視野に入れながらの「最終報告」を行ってもらおう。その場で得られた批判や助言が卒論の完成に活かされることが期待されている。</p>
学習目標	<p>3A の期間中 (5 月末か、6 月上旬) には、外部からの参加も募る「卒業論文中間報告会」を行う予定でいる。まずはこれを目標にして、立論の構成や結論の見通しに一定の目処がつけられるようにしたい。</p> <p>3B では、「最終報告」を経て、最終的な卒論執筆につなげていてもらいたい。</p>
授業計画	<p>【第 1 回】オリエンテーションと課題図書 の 提示</p> <p>【第 2 回】課題図書 1 の輪読 (1)</p> <p>【第 3 回】課題図書 1 の輪読 (2)</p> <p>【第 4 回】課題図書 1 の輪読 (3)</p> <p>【第 5 回】課題図書 1 の輪読 (4)</p> <p>【第 6 回】課題図書 1 の輪読 (5)</p> <p>【第 7 回】課題図書 1 の輪読 (6)</p> <p>【第 8 回】卒業論文中間報告会</p> <p>【第 9 回】課題図書 2 の輪読 (1)</p> <p>【第 10 回】課題図書 2 の輪読 (2)</p> <p>【第 11 回】課題図書 2 の輪読 (3)</p> <p>【第 12 回】課題図書 2 の輪読 (4)</p> <p>【第 13 回】課題図書 2 の輪読 (5)</p> <p>【第 14 回】課題図書 2 の輪読 (6)</p> <p>【第 15 回】春学期のまとめ</p> <p>【第 16 回】オリエンテーションと「最終報告」への注意</p> <p>【第 17 回】最終報告 (1)</p> <p>【第 18 回】最終報告 (2)</p>

	<p>【第 19 回】最終報告（3）</p> <p>【第 20 回】最終報告（4）</p> <p>【第 21 回】最終報告（5）</p> <p>【第 22 回】最終報告（6）</p> <p>【第 23 回】個別指導に関する注意</p> <p>【第 24 回】個別指導（1）</p> <p>【第 25 回】個別指導（2）</p> <p>【第 26 回】個別指導（3）</p> <p>【第 27 回】個別指導（4）</p> <p>【第 28 回】個別指導（5）</p> <p>【第 29 回】個別指導（6）</p> <p>【第 30 回】秋学期のまとめ</p>
予習	輪読に当たっては、報告者でなくとも、報告者と同程度の読み込みが不可欠である。「最終報告」は簡潔かつ結論の明快さが求められるので、それへの十分な準備を。
復習	演習内での議論や報告時に受けた質問や助言を、自身の学びや卒論にうまく接合させるように常に努力することが求められる。
授業に関する注意事項	ゼミ全体としてのタスク、授業内でのグループワークなどでのタスク、卒論を始めとした個人的なタスク——それぞれにおいて積極的な取り組みが要求されます。
教科書	特に定めず。
参考書	特に定めず。
成績評価の基準	卒業論文（中間報告）の完成度 70%、平常点 30%
関連 URL	特になし
備考	特になし